

議会改革特別委員会（第8回）

日 時	平成27年10月8日（木）午前9時から
場 所	第1議会委員会室
出席委員	全員
委員外議員	片桐議長
欠席委員	なし
協議事項	1 先進地視察の成果について（意見交換） 2 予算・決算審査のあり方について 3 その他

概 要

- 1 先進地視察の成果について（意見交換）
- 2 予算・決算審査のあり方について
 - ・ 民主党の事業仕分けのイメージであったが、評点が高めであり、本市に導入する場合は一考すべきである。
 - ・ ただし、それなりのコメントが記載されており、コメント重視の路線にするとよいのでは。点数化には無理がある。
 - ・ 分厚い予算書・決算書では事業の状況がわからない。そこからどう踏み込むか。単なる予算・決算確認ではなく、決算審査結果を予算につなげる仕組みが重要。結びつけることができる実感が湧いてきた。
 - ・ 非常に多くの事業から対象事業をいくつか拾い上げる時の考え方を整理する必要がある。多数決や平準化ではなく、「ぜひこの事業を」という委員の声の反映、追跡調査したい事業等を取り上げる等のしくみがほしい。議会として執行部にどう求めていくか。
 - ・ 議会による事業評価や決算審査に基づいて市長に提言するならば、必ず回答をいただくべき。
 - ・ 執行部の予算案を見てから審査しては遅い。決算審査の充実も必要だが、大事なのは予算に関与すること。なれ合いに気をつけたい。
 - ・ 既存事業は継続・維持・縮小の選択肢だが、新規事業をどう扱うか。

- ・ 直接チェックできるのは決算のところ。そこに時間をかけるのはよいと思う。
- ・ 評価だけではなく、例えば道路整備の優先順位等についてもチェックが必要なのでは。
- ・ 性急に進めるのではなく、1歩ずつやっていきたい。
- ・ 今回の視察が議員全員参加であったのはみんなの向上心の表れ。議会の態度を受けて執行部の意識が変わりつつある。
- ・ かほく市以外の先進市も調査して美濃加茂版を作っていきたい。
- ・ 第一に重要なことはP D C Aサイクルが機能しているかどうかということ。そこに切り込みチェックをしていく中で、執行部を改めていくことができるのでは。私たちもしっかり勉強し、モノを言える議員になりたい。この取り組みを議会と執行部の相互作用に結び付けたい。
- ・ 目標に対する自己評価が甘いまま通しては問題。適正な評価がなされているかチェックする、議会が評価を評価する意義はそこにある。
- ・ かほく市議会は、評価シートをもらって評価対象事業を抽出し、その事業について執行部から評価の説明を受け、その後議会による評価を行う仕組みであるが、説明の後に抽出した方が内容がわかりやすい。
- ・ 事業のマンネリ化を防ぐため、必要経費が適正かどうかポイントを絞ってチェックする必要がある。
- ・ 執行部の自己改善を促進することにより、議会も政策提言にシフトしていく可能性を感じる。
- ・ 執行部シートをわかりやすい様式にしていきたい。議会の評価シートは、なれ合いにならないよう、主張ができるシートにしたい。お互いよく考えないと。
- ・ 市の決算や評価の仕組みについて行政経営課に説明してもらいたい。
- ・ 一時の負担はあるが、これを超えればサイクル化できる。決算から予算までチェック出来るシステムを作ることができる。

まとめ

- ◎ 議会による事務事業評価について、他市議会の状況を調査する。
- ◎ 次回は、行政経営課を招き、決算及び行政評価について学ぶ。

3 その他

- 一般質問の一問一答方式については、市民へのわかりやすさと私たちの選択肢が増えることから、併用で導入を検討してはどうか。
- 議員の持ち時間をどうするか、議会日程への影響はないか等をよく考えて導入を協議しなければならない。
- 議会だよりについても、わかりやすさという点から、質問内容をテーマごとで括るのではなく、発言者ごとにしてはどうか。
- 市民はどうとらえているのかよく考え、地に足のついた進め方をしなければならない。